

## 2025年頭あいさつ

組合員、OB諸先輩のみなさん、御家族のみなさん、新年おめでとうございます。そして、JR東労組運動への御理解、御協力に感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

JR東日本会社の経営は組合員・社員の奮闘によって増収増益を確保することができました。しかし、2024年度年末手当の回答は、私たちの期待とはかけ離れた内容になりました。経営と職場の乖離があると言わざるを得ません。JR東労組も職場から寄せられた組合員の生活実感、労働実感を強く訴えましたが、力及ばず回答を変えることができませんでした。

そして「融合と連携」の名のもとに、統括センター化に伴う組織再編が進められ、担務する業務が拡大されるなど労働密度が年々増えています。要員不足に起因して相互運用や兼務などの課題が浮き彫りになっています。会社は「経営の参画意識」や「やりがい」だけを求めるのではなく、職場の苦勞に目を向けるべきです。そしてこのような経営姿勢を是正させるために組合員と議論し、未加入者に訴え、JR東労組への結集を求め、組織の強化・拡大を実現し、働きやすい職場を創造していきます。

また、安全に対しても同質な姿勢が如実に表れています。事故や事象に対する原因や背後要因の究明は疎かになり、命が奪われかねない事故・事象が頻発しています。

JR東労組は、「安全計画2028」発表以降に連続して発生する事故・事象に危機感を持って警鐘を鳴らしてきました。これまで以上に原因究明と責任追及を対置させ、たたかわなければ乗客や仲間の命も守り抜くことはできません。

JR東労組は「社員と家族の幸福の実現」に向け、社員の声に耳を傾け、応える会社づくりのために、引き続き奮闘していく所存です。

地方ローカル線の存続は、組合員の働く職場と仕事・生活に直結し、地方・地域にとっては人口流通の停滞と衰退化を防ぐうえでも重要な課題です。私たちは「地方ローカル線と地域の未来を創造する会」をはじめとする市民団体と連携し、地域住民との信頼を創りだしながら活動を展開してきました。より一層の当事者意識をもち、活性化に向けた行動を創りだしていきます。

ロシアによるウクライナ侵攻から間もなく3年目になりますが、停戦の兆しが今も見えず、イスラエルによるガザ侵攻も終息に向かっていません。JR東労組はあらゆる戦争政策に反対し、平和で安心して暮らせる社会の実現を目指し、憲法9条を守り広める仲間との連帯を強化していきます。

私たちJR東労組盛岡地本は、人間尊重企業を取り戻すために、組合員・社員の努力に報いない経営姿勢に立ち向かっていきます。そして仲間と大いに議論し「自分にとっての東労組」を明確にし、「抵抗とヒューマンイズム」を基底に、全ての仲間と共に職場から未来を切り拓いていきましょう！

組合員・御家族の皆様にとって、良い一年となることを御祈念申し上げ、年頭の御挨拶と致します。